

日本レジャー・レクリエーション学会 第28回学会大会大会本部企画

日時：第1日目 11月22日（日） 午後

□大会テーマ

『国際交流時代のレジャー・レクリエーション』

趣旨 これまで、国際交流の推進は一般的に、外務省をはじめとする公的分野の役割と
思われてきたが、情報と交通のグローバル・ネットワーク化により、NGO（非政
府団体）、NPO（非営利組織）など私的部門の果たす役割が大きくなってきている。
さきの長野オリンピックやフランスでのワールドカップにもみられるように、国際
交流プロジェクトの実施にあたっては、市民の積極的な協力・支援がきわめて重要
になってきている。

このたびの学会大会の開催地である九州・福岡においても、1995年夏季ユニバー
シアード大会開催にあたっては、市民のボランティア活動（サービス）が大会の成
功に大きく貢献したことが高く評価されている。

レジャー・レクリエーション活動は、個別のレジャー・レクリエーション活動へ
の参加が重要であることは言うまでもないが、市民が、単なる遊びでもなければ、
強制される仕事でもないいわゆる主体的な社会参加型あるいは、社会貢献型の活動
を通して国際交流プロジェクトに関わることも、レジャー・レクリエーションとし
てこれまた有意義である。このような活動を経験した人たちは、一様に、異文化の
相互理解、国際交流への寄与に深い喜びを感じとっている。国際交流プロジェクト
は、市民にとって、「世界・異文化・国際社会」を知るよい機会であり、また、「日
本・地域・自己」のアイデンティティに気づくよい機会である。

このたびの日本レジャー・レクリエーション学会大会では、九州・福岡地区の経
験、世界の経験を大所高所から検討し、その成果を社会にフィードバックし、今後
の国際交流プロジェクト推進のよきサポーター（地域・団体・個人）育成に学会が
貢献することも重要であると考え、「国際交流時代のレジャー・レクリエーション」
をテーマとし基調講演・シンポジウムを企画した。

□基調講演 15:00～15:40（40分）

1) 『世界のレジャー・レクリエーションの動向』

高橋 和敏 （株）余暇問題研究所

15:45～16:25（40分）

2) 『国際交流で私たちが経験し、学んだこと』

佐藤 靖典 （福岡市スポーツ振興課長）

□シンポジウム 16:35～18:35

国際交流時代のレジャー・レクリエーション

コーディネーター 大谷 善博 （福岡大学）

シンポジスト 1. 「市民支援型国際交流のあり方」

三本松正敏 （福岡教育大学教授）

2. 「ユニバーシアード等で学んだ国際交流プロジェクト
の効果と課題」

佐藤 靖典 （福岡市スポーツ振興課長）

3. 「レジャー・レクリエーションから見た国際交流に
おけるボランティア活動」

川西 正志 （鹿屋体育大学教授）